

前橋市公共施設等総合管理計画（改訂案）に関するパブリックコメント実施結果

意見募集期間 令和4年11月7日（月）～令和4年11月30日（水）

意見提出者数 4人

意見の件数 6件

反映することとした意見 1件（No3）

・いただいた意見について、市の考え方をお示ししています。

No.	パブリックコメントによる意見	左の意見に対する市の考え方
1	P12「将来の更新費用の推計(長寿命化対策)」 長寿命化対策を講じても、令和18～30年度の更新費用が集中しているが、限られた予算の中で必要な更新を先送りすることがないように、計画的に進めてもらいたい。 今後、多くの公共施設で利用者の減少や老朽化が進むという難しい課題があるが、地元住民との情報交換やサウンディング市場調査を利用した民間活用の事例を更に積み上げて施設の量を減らしていくことが必要である。	将来の更新費用推計は、現状の施設規模や施設数の維持を前提に試算したものです。現場の劣化調査や各種点検結果をもとに優先順位付けを行い、必要な工事を先送りすることが無いように計画的に進めたいと考えています。 公共施設の民間活用や総量縮減については、各種ソフト事業の充実等による、市民サービスの維持・向上に資するよう、地元住民に理解を得ながら慎重に検討を進めていきたいと考えております。
2	方針全般 本市の将来人口は減少していくことが予測されているため、公共施設は人口に応じた規模の縮小や複合化を進めていくことが必要である。 ただし、利用人数が少ないなどの理由のみで判断するのではなく、その公共施設が地域で果たす役割を見極めたうえで、決めていてもらいたい。	一定規模以上の施設整備等を行う際には、施設規模やコスト等が適正であるかの評価を行う、『前橋市公共事業評価制度』の事前評価を実施しており、引き続き効率的な事業実施を行いたいと考えております。 公共施設の活用検討については、施設性能や利用度、コスト効率性など多角的な情報から課題を整理し、今後の地域ニーズも考慮しながら検討していきたいと考えております。
3	方針全般 P26『これまでの取組実績』として多くの実績を残していることを評価する一方で、P9「施設保有量の推移」は右肩上がりとなっていることについては、一市民として危機感を持っている。 一部の市民しか使用しない施設や時代の流行りによって建設された施設、維持管理に多額の費用のかかる施設などは、利用者の反発もあると思うが、市民全体の利益のため、勇気を持って廃止や集約化等を進めてもらいた	施設保有量の増加や維持を続けることは今後ますます難しくなっていくため、施設の必要性や機能の重複、今後の地域のニーズ等を考慮し、廃止や集約化を検討したいと考えております。 また、集約化や統廃合により使われなくなった施設については、その他用途での行政利用や民間事業者への売却や貸付を検討し、跡地活用を進めていきたいと考えております。 つきましては、ご意見を踏まえ、P37 STEP5: 個別具体的な活用の実践の③効率的利活用に、

No.	パブリックコメントによる意見	左の意見に対する市の考え方
3	い。また、廃止した施設は有効利用を進めてもらいたい。	「○用途廃止施設の利活用の考え方 集約化や統廃合により、用途廃止となった施設については、行政利用やサウンディング型市場調査を利用した民間事業者への売却や貸付を中心とした跡地活用を進めます。また、跡地活用を具体的に進めていく際には、市民や地元住民に対し十分な説明を行い、理解を得ながら進めます。」と記載します。
4	方針全般 今回は7年ぶりの改訂とのことですが、人口や施設保有量などのデータを更新したもの以外で改訂した部分はどこですか。 特に方針の部分で新たに追加したものや変更したものがあれば教えてください。	方針の部分で追加した主なものは以下のとおりです。 ・P30、31 「3. 全庁的な取組体制」 ・P35 「STEP5：個別具体的な活用の実践」 ①長寿命化 ○点検の実施、 ○予防保全計画推進プログラムの実施 ②総量縮減 ○統合・廃止の考え方 ③効率的利活用 ○用途廃止施設の利活用の考え方 ○脱炭素化の推進
5	P34「全庁的保有資産の情報把握」 資産を効率的に活用するには、情報を的確に把握することが一番重要だと感じました。 安全面や人員配置などのコストに問題があるのか、利用者のニーズに合っているのかなど、定期的にきちんとした評価ができればよりよい施設になると思います。ぜひ、この情報の把握と評価をしっかりと進めてください。	施設の利用度や運営コストを把握するための施設評価調書を毎年更新し、施設類型ごとの課題の抽出や活用の方向性の整理に活用しています。 この取組みにより、施設の最新情報を的確に把握し、利用頻度の高い施設はより効率的な運営を、そうでない施設は有効活用に向けた継続的な検討を進めたいと考えております。
6	P35「個別具体的な活用の実践（長寿命化）」 市有施設の6割が築30年以上経過しているようだが、今後高齢化や災害対策に多くの費用が掛かる中で、利用する施設の安全性が保てるのか不安がある。 建物の維持費の中で電気や燃料の負担が大きいため、LED照明や省エネ性の高い設備を積極的に導入して、維持管理コストの削減を進めていってもらいたい。	市有施設の安全性の確保については、自主点検を着実に実施し、施設の劣化状況や緊急度を適切に把握することが重要であると考えております。その中で必要性や緊急度に応じた優先順位付けを行い、財政負担の平準化に配慮しながら、施設の適正な保全、長寿命化を図っていきたいと考えています。 設備等の改修の際には、高効率の空調や照明の導入を積極的に実施し、光熱費を始めとする維持管理コストの削減に努めていきたいと考えております。